

会 議 録

会 議 名	2025 年第 1 回東浦町中央図書館協議会	
開 催 日 時	2025 年 6 月 25 日 (水) 午後 3 時 00 分から午後 4 時 20 分まで	
開 催 場 所	東浦町中央図書館 2 階 大会議室	
出 席 者	委員等	成田幸治氏、真山恵氏、月原康雄氏、座光寺美砂子氏、浅井真司氏、小田薫氏、柏木由里子氏 1 名欠席
	事務局 (学び支援課、株式会社図書館流通センター)	原田ふくし文化部長、関学び支援課長、植田生涯学習係長、長谷川主事、大西館長、平松副館長、鳥居サブチーフ
議 題 (公開又は非公開の別)	1 2024 年度事業報告について (資料 1) (公開) 2 2025 年度事業計画について (資料 2) (公開) 3 その他 (公開)	
傍聴者の数	0 名	
審 議 内 容	◆図書館長 資料確認を行う。 会議の成立について報告する。 次第に従って会を進める。 ◆ふくし文化部長(挨拶) ◇委員長 (挨拶) 以降は委員長が議事を取り回す。 ◇委員長 次第に従い議事を進める。議題 1 「2024 年度事業報告について」を議題として、事務局からの説明を求める。 ◆事務局 資料 1 に基づき、議題 1 2024 年度事業報告について説明する。 ◇委員長 事業報告について、委員の質疑を募る。 ◇委員 図書・雑誌のリサイクルの譲渡率について、非常に高い譲渡率を達成するにあたり行っている工夫はあるか。	

◆事務局

会場は大会議室であるが、ある程度の数が減ったらリサイクルフェア終了後、1 階のゆめらびコーナーに移動し、2 階の会場には足を向けなかった利用者にもリサイクル本を目にする機会を作ったことが高譲渡率の理由として挙げられる。移動後は1 週間程度でほぼすべてのリサイクル本、雑誌が譲渡されている。

◇委員

ブックスタート事業について、平成の頃から行っている事業ではあるが、事業の成果、気づいたことがあったら教えてほしい。

◆事務局

東浦町のブックスタート事業は平成 28 年度から開始した。

ブックスタートの目的は、絵本とおはなしをプレゼントし、親子に本を通じたあたたかな時間を提供することである。

東浦町の特徴としては、絵本を2 回プレゼントする機会があることである。2023 年度から4 ヶ月健診時の絵本引換券配付を廃止し、4 ヶ月健診時に絵本をプレゼントする方式に変更し、ほぼすべての赤ちゃんに絵本をプレゼントすることが実現できている。

1 歳6 ヶ月健診時は引き続き絵本引換券をお渡しし、図書館、子育て支援センター、児童館のいずれかの施設に足を運んでもらい絵本と交換してもらう方式にしている。読書活動の支援だけでなく、親子が地域と関わるきっかけにもなっている。

◇委員

自分が子育て中の時に、ブックスタートのときにおはなしを聞かせてくれたことがきっかけで図書館の定例おはなし会に毎週行くようになった。

◇委員

子育て支援センターでブックスタート事業に携わっている立場にあるが、絵本の引換券があることで、家にこもるだけでなく、外に出て遊びの場に出かけるきっかけになったという保護者もいる。

引換券の存在をふと思い出して施設に来ていただけている方もいた。

◇委員

昔は小学校が図書館の見学をする際に図書館カードを作成して配付していたかと思われるが、今の状況はいかがか。

◆事務局

見学時に本の貸出体験を希望している小学校にはカードを配付している。

また、貸出体験を希望しない学校についても、打ち合わせ時に学校側から希望があれば、カードを作成して見学日当日に配付している。

◇委員

ほかの市町村と比べて、東浦町の子どもの図書館カードの保有率が高い

	と思う。ぜひ活動を継続していただきたい。 ◆事務局 見学日以外にもまた図書館に足を運ぶきっかけにもなるため、図書館カードの発行と配付は継続していきたいと思っている。 ◇委員長 資料1、P23の障がい者向けサービスについて、配達サービスは職員の方が実際に自宅に赴き、貸出も返却も行っているのか。また、利用者は何名程度いるのか。 ◆事務局 スタッフが貸出する本を自宅まで配達し、返却本の回収時にまた新たな貸出本を持って行くというサイクルになっている。 現在は1人の方が継続して利用しているが、周知不足は否めないため、サービスを利用したい人に情報が届くよう、周知を行っていきたいと考えている。 ◇委員長 視覚障がい者サービスで視聴覚資料を郵送しているという説明があったが、配達サービスとの兼ね合いはどうなっているのか。 ◆事務局 視覚障がい者向けサービスは、第四種郵便物という郵便局が提供しているサービスを利用して、特定録音物等郵便物に相当する図書館の視聴覚資料を自宅へ郵送するサービスである。 先ほど説明した配達サービスとは対象が異なっている。幅広い利用者が図書館資料を利用できるよう、提供するサービスの選択肢を増やしていきたいと思っている。 ◇委員長 目の調子が悪く、文字を読むのが難しくなってきた人でも読書を楽しむことができる視覚障がい者向けの朗読図書のようなものは所蔵しているか。 ◆事務局 有名作品の朗読CDを所蔵している。当館には備えがないが、本をカメラにかざすと、文字を音読してくれるような機械は存在する。当館のサービスであるよむらび電子図書館には読み上げ機能があり、話し手の声を録音している資料も中にはあるため、そちらをご案内するようにしている。 ◇委員 年齢別の貸出点数について、16～18歳の貸出数がすごく伸びた。 何か仕掛けがあるか。 ◆事務局
--	--

図書館として、中高生を対象に特別な働きかけは行っていない。
恐らく学習室の利用が増えたことによる相互作用ではないかと思われる。
当館としても学生の貸出が増えたという実感はなかったがこのように数値に表れていることから、学習目的で来館した際に目についた1冊2冊を借りてくれる学生が増えたのかもしれない。

◇委員

本以外の目的で来館したことがきっかけになっているのかもしれない。
一方で、幼児の利用が伸びていないように見える。図書館に来てもらえるきっかけづくりをしてほしい。

◆事務局

承知した。幅広い世代の利用に繋がるよう努めていきたい。

◇委員長

議題1について締め切り、議題2「2025年度事業計画」について、事務局へ説明を求める。

◆事務局

資料2に基づき、議題2「2025年度事業計画」について図書館長から説明。

◇委員長

事務局の報告を受けて、委員の質疑を募る。

◇委員

ちょっとした提案だが、自分はPTAの活動で西部中学校で先生方に「好きな作家さんは誰ですか」というインタビューを行い、結果を生徒へ共有した。生徒からの評判は良く、先生が読んだ本を自分も読みたいといった具合に盛り上がった。ほかの中学校でもやってみてはどうか。

◆事務局

参考にさせていただく。市長や消防局長など地域の有名人にインタビューを行い、利用者へ共有する企画を行っている他図書館もある。東浦町でも同様の取り組みができれば面白いかもしれない。

◇委員

特集展示が指定管理者制度導入から大変よかった。継続していること、タイムリーな展示も行っていて素晴らしいと思う。

◆事務局

担当するスタッフも各自得意なことを活かし展示方法も工夫できるようになってきた。今後ご期待に沿えるよう、様々な展示を行っていききたいと思っている。

◇委員長

	図書館はクーリングシェルター実施館となっているが、クーリングシェルターに限らず、0歳でも90歳の人でも、朝から晩まで居ていい場所。図書館が気持ちのいいところになっていることをもっとPRできるとよいのではないかな。 ◆事務局 図書館はどのような人でも利用できる施設である。様々な目的を持っている方、それぞれが気持ちよく過ごせる場所にしていきたいと思う。広報活動にも力を入れていきたい。 ◇委員長 議題2の質疑を締め切り、議題3「その他」について、事務局へ説明を求める。 ◆事務局 議題3は特になことを報告する。 ◇委員長 その他の案件がないことを確認し、議事の終了を宣言。 ◆事務局 事務連絡を行う。 【事務連絡】 7月5日に開催するMLA連携講座の案内を行う。 次回の第2回中央図書館協議会は3月に予定していることを連絡。 挨拶を行い、会議の終了を宣言する。
--	---